



西村証券

チーフストラテジスト
門司総一郎の

ウィークリーレポート

2021年
11月4日
発行

第110回

「2021年7-9月期決算発表」

～好業績続く日本企業～

初めに

7-9月の決算発表が続いています。この期は原材料価格の上昇やサプライチェーンの毀損など想定外のことが立て続きに起きましたが、にもかかわらず日本企業は全体として好業績を維持した模様です。10月31日の日本経済新聞はそれまでの決算発表について3割が上振れ、1割強が下振れと報じています。今回は決算発表についてお話しします。

ソニーの営業利益1兆円越え

ソニーグループは今期の業績見通しを上方修正、営業利益は1兆円を超え過去最高を更新すると発表しました。営業利益1兆円越えは日本の製造業ではトヨタに次いで2社目とのことです。音楽部門が好調、またゲームなどサブスクリプションを軸とする戦略も奏功しました。

電子部品各社も好調持続

ソニー同様に好調持続しているのが電子部品各社です。5G向け、EV向け、更には電動バイク向けなど需要は止まるところを知りません。電子部品各社の業績好調はまだ続きそうです。

市況関連も好決算

商品価格の上昇を受け、市況関連も好決算となりました。商社では三井物産などが相次いで今期見通しを上方修正しました。三菱ケミカルなど化学メーカーも上方修正、日本製鉄も鋼材の値上げ浸透により最高益を更新。コマツは純利益が76%増に上方修正、鉱山機械については世界全域で好調とコメントしています。昨今の資源価格上昇や円安を見て日本の企業業績に不安を持った方もいらっしゃるかもしれませんが、それは杞憂と言ってよいでしょう。

半導体不足が苦戦の要因

一方業績の足を引っ張っているのは半導体不足です。任天堂を始め半導体不足から下方修正を余儀なくされている企業が多いようです。サプライチェーンの問題もあります。トヨタは東南アジアの工場が新型コロナにより一時生産停止となりました。トヨタ車に対する需要がなくなっている訳ではないのでいずれ回復すると思いますが、気になるところです。

内需関連企業の業績は今後回復へ

これまで新型コロナの影響から抜け出せなかった内需系企業の決算は、今回も厳しいものとなりそうです。ANAやJR東日本は業績見通しを引き下げました。ただし足元の感染は収まりつつあり、緊急事態宣言も解除されました。新幹線などでも顧客が戻りつつあるようです。こうした内需系企業の業績は今後改善に向かうと見ています。

西村証券株式会社 NISHIMURA SECURITIES Co., Ltd.
京都市下京区四条通高倉西入立売西町65番地(本社)
TEL:075-221-9390(本店営業部)

金融商品取引業者 近畿財務局長(金商)第26号
加入協会:日本証券業協会 主な事業:金融商品取引業
指定紛争解決機関:特定非営利活動法人 証券・金融商品あっせん相談センター

本書面は特定の金融商品の勧誘を目的として作成したのではなく、あくまで情報提供を目的とした書類です。書面上の株式市場見通し等は、本書面作成時の当社予想ですが、その後の市場動向・結果・影響等について当社が保証または責任を負うものではありません。また内容については予告なしに変更される場合もあります。本書面の著作権は当社に帰属します。当社の文章による承諾なしに、第三者への配布・コピー等はご遠慮ください。